

蜘蛛の都

メンゾペランザン。まさにその名こそ、サヴェージ・フロンティアでもっとも強い者たちの間にすら戦慄をかきたてるものだ。そこに住まうドラウにとって、蜘蛛の都は裏切りと陰謀の巣窟だが、さらに恐るべきアンダーダークの恐怖に対する喜ばしい安息の地でもある。

この章では蜘蛛の都の基礎知識を紹介する。故郷としているドラウすべてが生き残るために知るべきメンゾペランザンの危険な市井のことを。この章には以下の項がある。

- **蜘蛛の空洞:**他のものとりわけ凄まじい—アラウリルカウラックこと蜘蛛の都を取める、大いなる柱の空洞—の奇観を紹介する。“他のもの”のいくつかは著名なドラウの墓所として使われた湖、ドニガルテン。都市の時計として使われている中心の石柱、ナルボンデル。そして洞窟の床に大きく口を開けた3つの底なしの裂け目、リフツなどがある。
- **都の生活:**メンゾペランザンの無造作な都市の雑踏から壮麗な建造物まで、そこかしこを見てまわり、生の声に耳を傾けよう。
- **街区:**メンゾペランザンの6つの街区に市民はあふれ、そこで暮らし、働き、そして死んでいく。街区は非常にごみごみしてむき苦しい貧民窟のプラエリユンから、驚くほど豪華な邸宅と庭園が並ぶクエラズオルルまで幅広い。それぞれの街区の名所いくつかについては、その場所と支配者の説明で詳細を肉付けしている。
- **暗黒の地:**メンゾペランザンは蜘蛛の空洞よりもさらに広大な領域を、その支配下に収めている。空洞の壁の向こうには、マントルとして知られる細い通路の迷宮が伸びている。ドラウは時々これらの通路や小さな横穴を使い、彼らはまた、定期的に暗黒の地へ斥候を派遣している……だが、ドラウさえ足を踏み入れることを躊躇する場所が、そこにはある。



